

# 人・まち・夢 プラン

協働による新しいまちづくりに向けて

平成 15 年 10 月

地域人材育成・協働部会

# 目 次

[ 1 ]	新しい“自治”をめざして・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	地域の再発見が進んでいます・・・・・・・・	1
2	流れはますます強まります・・・・・・・・	2
[ 2 ]	人・まち・夢 プラン・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1	杉並区は提案します・・・・・・・・	4
2	自ら参加・みんなで解決・・・・・・・・	5
( 1 )	(仮称)杉並・地域参加情報サイトの構築・・・・・・・・	6
( 2 )	(仮称)杉並・人づくり大学の創設・・・・・・・・	7
[ 3 ]	協働の実をあげるために・・・・・・・・	9
[ 4 ]	実施に向けての取組み・・・・・・・・	10
【資 料】		
1	地域人材育成・協働部会及び区民意見交換会 検討経過	
2	地域人材育成・協働部会員名簿	

# [ 1 ] 新しい“自治”をめざして

## 1 地域の再発見が進んでいます

NPO、また地域での防犯活動など、住民の地域での主体的な活動が活発になっています。匿名性に象徴された都市生活に変化がおきているのです。住民が地域を再発見し、地域社会に主体的に関わることに、喜びや面白みを感じ始めています。

いま私たちの前に、新しい自治、新しいまちを創る気運が広がり、条件が整いつつあります。

戦後の都市化は、近隣関係を希薄にし、都市生活に必要なサービスを住民の相互扶助によって生み出すことを減らし、企業や、特に行政に委ねる傾向を強めてきました。しかし最近、地域住民自らが必要なサービスを提供し、担おうとする動きがおきています。

典型的にはNPOです。利潤追求を目的とした企業と異なり、社会公益的事業を非営利で担おうとするNPOが、法人格を取得したもので区内に120団体(9/1現在)あり、1年半で約2.5倍に増えています。区役所との関係でも、高齢者在宅サービスセンターやグループ保育室、パソコン相談コーナーを運営したり、環境やまちづくりで積極的に提言したりするNPOが多数生まれています。

「ご近所の底力」的な、隣近所の協力関係も再生しつつあります。犯罪の多発など治安の悪化に伴う自衛策という側面もありますが、馬橋地区の「ご近所づきあい広目隊」の防犯活動が代表例でしょう。従来からある町会・自治会や商店会、青少年育成委員会、PTAなどにも支えられ、またそれらをまき込んで、安全、美化、ごみ、児童育成など、生活に密着した多様な分野の活動が生まれています。

教育の分野でも、こうした動きは顕著です。学校週五日制に伴い、土曜日学校が地域住民の協力により設置・運営され、多くの学校サポーターが活動し、大人の学習機会として行われるすぎなみコミュニティ・カレッジの企画・運営にはNPOが関わっています。

端的に言えば、住民が、地域やそこでの人間関係を再発見しつつあるのです。都市生活の匿名性を享受してきた人たちが、地域社会に積極的に関わることに、喜びや面白みを感じ始めているのです。

社会が豊かになったこと、都市で生まれ育った層が主流になったこと、行政に任せきれない身近な問題が増えたこと、インターネットなどの情報処理技術が発達したことなど、背景は色々あります。しかしいずれにしても、地域の問題、地域の運営に、住民が興味を持ち、

積極的に関わりだしたこと、これは素晴らしいことです。それは、自治の原点であり、自治を強化する力です。

## 2 流れはますます強まります

団塊の世代が地域に戻り、高い意欲で参加してきます。区としても、地域再発見の後押しをし、地域の課題解決に向けて協働を積極的に推進していく必要があります。これは、大きな社会の流れでもあります。

こうした流れは、今後ますます強まることが予想されます。

受験戦争、ニューファミリー、そして少子化といった戦後の社会変化を特徴付ける多くの現象は、いわゆる団塊の世代の成長と共に起きてきました。「地域の再発見」も、早くに子育てを終えたこの世代を軸にして進んできたと言って良いかも知れません。

この団塊の世代も、現在 50 歳代半ばに達し、数年後には定年期を迎えます。

定年後の第二の人生の過ごし方は様々でしょう。しかし、再就職するにしても、趣味や自己啓発に力を入れるにしても、また、社会的な活動に参加するにしても、これまでよりもはるかに、自分が住む地域社会との関わりが深くなります。

この世代は、競争社会の中で鍛えられ、コンピューターなどの情報処理に高い能力と関心を持ち、自分なりの価値観が強く、旺盛な社会参加意欲を持っているといわれます。地域社会がうまくこの世代を吸収し、社会貢献活動をはじめとする地域活動への参加を促すことができれば、新しい自治の流れは一層加速され、強化されます。それは、後に続く更に若い世代にも、大きな道を開くことになります。

住民の力を地域の活動に活かしていくことは、区政の運営にとってもますます必要になっています。これからの行政は、自治体の肥大化を抑え、小さな地域政府を目指すと共に、行政が半ば独占してきたサービスを様々な角度から見直し、地域社会に委ねるべきものは委ねつつ、本当に必要なサービスを最も効果的・効率的な形で提供することに努めなければなりません。杉並区はこうした観点から、「スマートすぎなみ計画」を策定し、体質改善に取り組んでいますが、その推進のためにも、多くの区民の地域活動への参加が必要です。

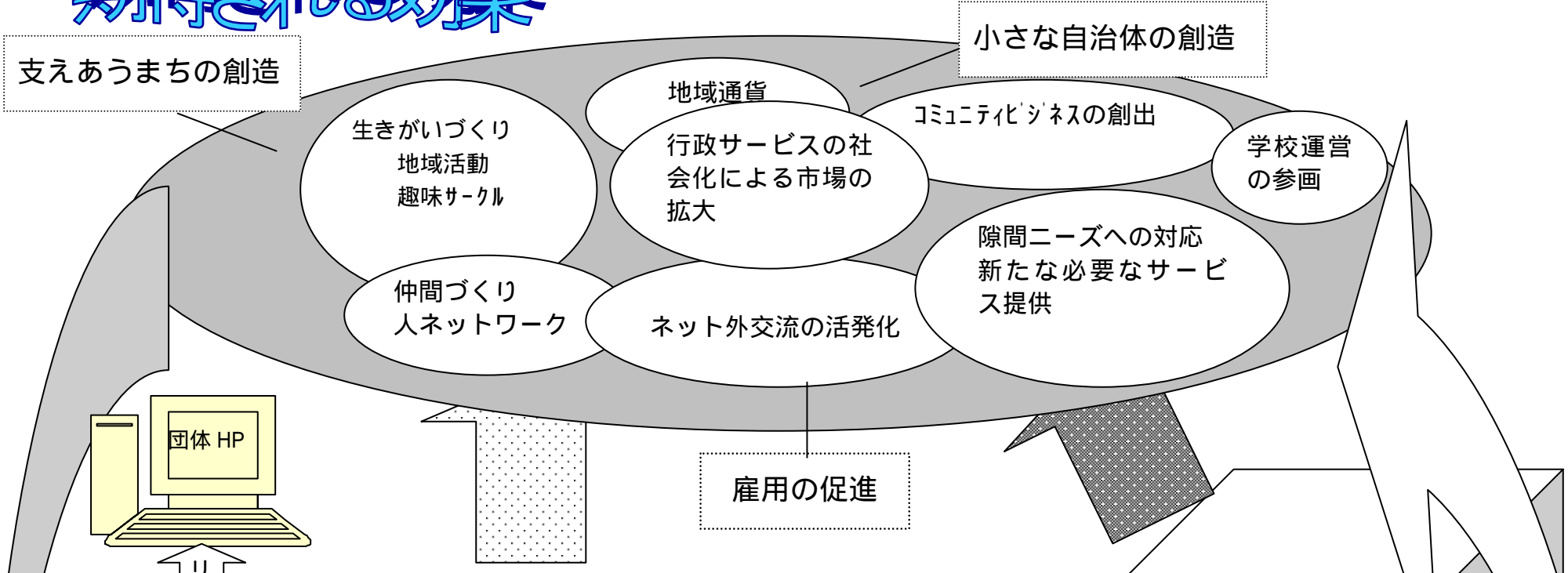
必要なサービスを効果的・効率的に提供しながら小さな地域政府を目指す、というこの取り組みを成功させるためには、これまで区が直接的に提供していたサービスの一部を、地域の中で、地域住民自身に担ってもらうことが不可欠だからです。

それは、いわゆる安上がり行政を狙うものではありません。地域活動に参加したいとする

# 人・まち・夢 スラン

協働によるあたらしい自治のまちすぎなみ

## 期待される効果



**「杉並・地域参加情報サイト」** (仮称)

リンク ↓

団体 HP

リンク ↓

区公式 HP

大人の学び

個人のPR情報 (登録)  
自分の持てる技術・技能などに関する情報を開示し、ほしい技術などの情報の発信。

「知の広場」サイト  
・スキルアップ情報  
・講座情報

団体のPR情報 (登録)  
団体等の活動内容やさまざまな情報を掲載するとともに、参加や人材を募集。

この指とまれ! サイト  
区民、事業者、NPO、行政等が自ら事業提案をする場。

たまり場サイト  
地域の問題や活動の相談など、隙間ニーズの課題をオープンにし、自由に話ができるサイト。  
新たな活動の創出。

(仮称)  
**杉並人づくり大学**

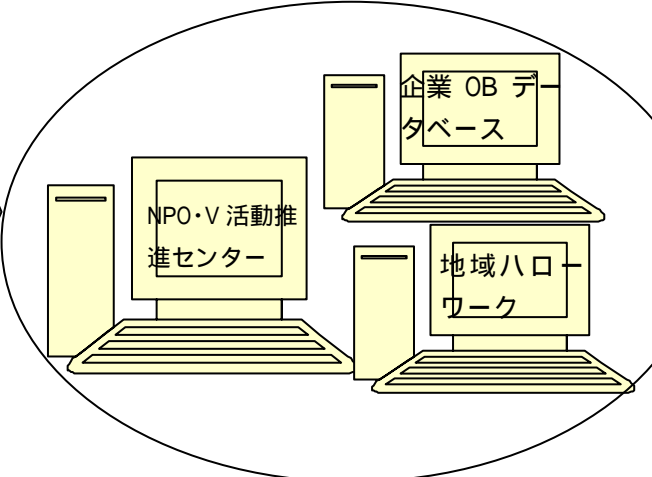
地域活動への足がかり  
知識、技能の習得

コミュニティカレッジの拡充

- ・NPO・V 活動推進センター講座、杉の樹カレッジ講座など、区の講座等の連携、多様性の確保
- ・NPO・大学、企業等との連携

コーディネーター機能

- ・活動入門講座
- ・専門講座
- ・資格取得講座
- ・起業講座 ・テーマ共有講座



## 団塊の世代等の地域還流

60～69歳	
平成15年度	54,172人
平成20年度	61,384人 (1.13倍)

## ニーズ

## 区民、事業者、NPO等

- 自由に話し合える場
- 趣味や共通のテーマをもつ仲間に出会える場
- 新しいビジネスチャンスをつかめる場
- 経理に強い人に来てほしい (NPO)
- 資格を取得して地域で社会貢献してみたい
- 生きがいを見つける場
- など

区民、社会貢献活動の一部を担おうとするNPOなど、既に地域に生み出されている力に依拠しながら、区民、NPO等の団体と区が、協働による新しい自治を創り出す取り組みです。

杉並区は、基本構想や基本計画で住民との協働の推進をうたい、杉並区自治基本条例や杉並区NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する条例を定めるなどして、こうした取り組みを進めるための条件を整えてきました。しかし、協働の推進は始まったばかりであり、乗り越えなければならない課題もたくさんあります。区も、協働の実践を通じて学び、変革しながら、住民の地域再発見を後押し、新しい杉並区を創り上げていくことが求められています。

## [ 2 ] 人・まち・夢 プラン

### 1 杉並区は提案します。

インターネットを軸にした地域再発見システムを提案します。地域での活動に必要な情報が網羅され、具体的な活動につなげることが出来ます。活動を効果的にするために必要な知識や技能の習得も可能にしましょう。これを「人・まち・夢 プラン」として提案します。

具体的に地域の活動を担ってみたい、と考えても、その実現は容易ではありません。特に、それまで会社勤めをし、地域社会との関わりをほとんど持たずにきた人たちにとっては、地域社会で求められていることも、実際に行われている状況もわからず、一緒に考え、学び、行動する仲間もいません。

そこで、地域の活動への関心を意欲に高め、意欲を具体的な行動へと進めるための、なんらかの仕掛けが必要になります。

代表的なケースで考えてみましょう。

会社勤めをし、それまでは地域社会を省みる余裕がほとんどなかった。家族は大切にしていたから、それでも子どもが小さいうちは、学校の運動会に参加したり、PTAの活動に係ったりしたこともあったが、いつのまにか地域の人たちとのつながりはなくなってしまった。地域といえば、日曜日に買い物に出たり、たまに家族で食事をする程度の場合。しかし、3年後には定年を迎える。アウトドアが好きだから、旅行やキャンプ、ゴルフや釣りといった好きなことを時間に縛られずにできるようになることは楽しみだけれど、そればかりという訳にもいかない。一定の収入も確保したいし、健康のためにも働いたほうが良いのだが、大きな組織と付き合うのは、今の会社で十分。どうせ第二の人生をスタートさせるなら、自分

の納得できることを、これまで身につけた能力を活かして、気の合う仲間と一緒にできるようにしたい。できれば、永年お世話になりこれからも暮らしつつけるこの地域で喜ばれることが出来れば最高なのだが。といっても、仲間もいなければ特技らしい特技もない。そもそも、地域で求められているものがどういうものかも分からない。まずは地域のことを知り、自分の能力を高めるようなことから準備をしていきたいな。それには...

団塊の世代以降の人たちの多くは、ここでインターネットに向かうでしょう。もちろん、町会長や民生委員などに聞きに行く人もいるかもしれませんが、しかし、地域とのつながりが薄い多くの方は、まず、インターネットで情報を得ようとするでしょう。

インターネットに地域参加情報サイトを設け、人づくり大学のような能力開発の仕組みと併せてシステム化することが求められています。これらの全体を「人・まち・夢 プラン」として提案します。

## 2 自ら参加・みんなで解決

より多くの区民の関わりによってシステムが循環しながら深まり広がり、やがて、人がまちで活動することにより夢を育み、多様なレベルの協働が地域に活力をもたらしていくことをねらいとします。参画と協働による新たなまちづくり、自治の仕組みとして、「自ら参加、みんなで解決」を合言葉にプランを立ち上げます。

地域活動への関心や意欲は様々です。例えば、

共通の話題や心配事を一緒に考えてくれる仲間がほしい

地域課題解決のために活動する仲間をつのりたい

生き甲斐づくりや趣味のサークルの活動をしたい

コミュニティビジネスを立ち上げて働きたい

学校サポーターなど学校支援の活動をしたい

地域通貨で商店街を元気にしたい

行政評価を区民自身の手で行いたい

などなど。こうした、人の数だけある「したい」を「できる」に変える、関心や意欲を具体的行動に進めるためのシステムが「人・まち・夢 プラン」です。その結果、豊かな暮らしや安心なまち、そして自慢できるすきなみが見えてきます。合言葉は「自ら参加、みんなで解決」です。より多くの知恵や経験を集積し、加工し、それぞれの状況に合う方法を見つけたり、仲間を探したりして、地域活動の実践につなげていくことのできる場を、一緒につくりましょう。

## (1)(仮称) 杉並・地域参加情報サイトの構築

区民の地域活動への参加意欲を行動へと結びつける仕組みとして、インターネットによる情報サイトを立ち上げます。単なるデータベースとしてではなく、地域の関心や課題などを共有する中から、具体的な活動へと展開していきます。

このサイトは、区民と区を含む団体等が自由に交流し、情報を交換する中で、区民の地域活動への参加と協働を促します。“「したい」を「できる」”にするための、バラエティーに富み、また整理された情報を持ち、区公式ホームページ、NPO・ボランティア活動推進センターや地域ハローワーク、企業OBデータベース、各登録団体等のホームページともリンクするなど、自由な広がりを持ったサイトとなります。

例えばこんな情報のまとまりを考えました。これらは、あくまでも一例で、あらゆる方の参画で様々な情報の種がまかれ、ふくらみ、広がっていくことを想定しています。

### 「団体等のPR情報」

サイトの中核となる部分で、様々な地域の活動や、それを担う団体等を紹介します。家の近所で、高齢者介護のお手伝いをし、多少の収入も得たい、などといったそれぞれの条件を入力することで、自分の希望にあった団体等を検索することができます。団体等が自分のホームページを持っていれば、そのホームページに簡便に移行し、詳しい状況が分かります。町会・自治会など公共性の高い団体で、ホームページが無い場合、作成も支援します。もちろん、団体等の側からも、経理に強い人、とか、ピアノの弾ける人、といった人材募集なども可能です。なんらかの資格が必要な場合は、その資格を取得する方法も調べることができます。これにより、新しい人との出会いや団体間のつながりが生まれます。

NPO・サークル・町会・同窓会などの活動紹介や、バレーボールチームに入りたい、近所の病院でボランティアをやりたい、こどもの朗読をやってみたいなど、色々なやる気を受け止めます。

### 「個人のPR情報」

自分の技術・技能、経験、意欲、資格などをPRします。個人からの発信で、自分の経験等を必要としている団体等から、参加の勧誘があるかもしれません。

自分の経歴を売り込んだらNPOから経理の依頼がくる、自分の技術をアピールしたらビジネスの話が、など、待ちの人材バンクから攻めの人材バンクになります。



### 「知の広場 サイト」

知識や経験をさらにアップさせたり、資格を取得したりすることで、地域活動の参加の幅や機会が広がります。団体等が必要としている人材を調査し、不足している人材を育成する教育訓練の場を設け、民間の教育機関とも協力して、様々な教育訓練の機会を提供します。

地域防災のために救急救命の技術を習得したい人、地域の子ども達のために野球の審判講習会を受けたい人、障害者の外出支援をするために必要な知識を学びたい人、などに応えられる分野別・実施主体別などで検索できる講座・教室情報です。

### 「この指とまれ！サイト」

地域活動は、既存の団体等に参加するだけでなく、事業を提案し、自分で仲間を募って行うこともできます。仲間を募ってやってみたいことがあれば、このサイト。予想以上に同じようなことを考えている仲間が集まるかもしれません。もちろん、既にスタートしている活動への募集も可能です。

杉並区の観光立地について考え、行動する仲間が欲しい、地場の農産物を区民に広めたいのだが、農業者の協力を、など、そこから起業につながるかもしれません。

### 「たまり場 サイト」

地域には様々な問題や課題がありますが、地域の人達が自由に意見を交換する場は多くありません。地域の問題や活動の相談など、隙間ニーズの課題をオープンにし、自由に意見交換ができるコーナーで、いま直ぐ地域活動に参加することはできないけれど、という、地域活動予備軍にも活用して欲しいサイトです。

ごみ集積所が汚い、電柱のステ看、子育て、子どもの登下校が心配、など、何でも話題にすることで、アイデアが出たり、活動団体が生まれたりするかも知れません。意見交換それ自体も、自治の基盤を作ります。

## (2)(仮称)杉並・人づくり大学の創設

まちづくりは人づくりです。地域活動への参加という大きな動きを作り出していくために、地域で必要とされる知識や技能を明確にし、地域で求められる人材の育成を図ります。それが、「地域で何かしたい」という気持ちを、具体的な活動や人、団体につなぎます。

(仮称)杉並・人づくり大学は、社会貢献意欲を持つ区民の方々が活動に必要な知識・技能を学ぶ場として創設します。また、そこで生まれた人のつながりが、地域との接点になり、

具体的な活動につながっていくことも期待されます。

活動に必要な知識、技能を学ぶ場ですから、講座の種類や内容はできる限り実践的なものとし、ます。このため、NPOを始めとする様々な地域活動団体との連携を図るなかで、求められる内容の把握や、訓練プログラムの設定を行います。

これまでも、すぎなみコミュニティ・カレッジや杉の樹カレッジ、また、環境・福祉・健康・防災・消費者などの様々な分野、さらには地域区民センター運営協議会の自主講座など、多種・多様な区民向け講座が行われてきました。しかし、昨年からは始まったすぎなみコミュニティ・カレッジなどの一部を除いては、学んだものを具体的な活動に活かしていく、という目的意識が強くはありません。

したがって、既存の講座等についても、可能なものは地域活動に必要な人材育成という観点を強めて行きつつ、すぎなみコミュニティ・カレッジの人材育成分野を拡充して、新たに地域活動に必要な人材を育成するという目的を明確にした（仮称）杉並・人づくり大学を創設する必要があります。

（仮称）杉並・人づくり大学は、自ら訓練プログラムを開発・実施すると共に、NPOボランティア活動推進センターやNPOが独自に行う講座や、実践的なプログラムに改編された既存の各種講座、さらには民間や大学、他の行政機関で行われる資格取得のための講座などを有機的に結び、これらの講座等への区民の参加を促し、全体として地域活動に必要な人材の育成を目指す機関とします。また、講座の種類によっては、杉並区独自の修了認定資格を付与し、能力を公証します。

（仮称）杉並・人づくり大学は、高齢者人材バンクなどの人材登録機関との連携を強めることも必要です。人材バンクは、登録された人材を具体的な活動に結びつける活動を強化することが不可欠ですが、そのためにも、登録者の教育訓練を人づくり大学が担い、また、人づくり大学の修了者を人材バンクに登録し、具体的な活動に活かしていくという、相互の協力関係が求められます。

こうした役割を果たすためには、区内教育資源の発掘や関連講座を含む講座の体系的提示、資格付与できる講座レベルの確保、講座修了者等の地域活動への参加促進・コーディネート等が必要です。このため、区民参加の運営組織や、関連部署等による共同の大学事務局設置などが必要となります。

なお、（仮称）杉並・人づくり大学の名称やそこが主として取り組む講座の範囲、それに伴い必要となる専用の場の確保や組織・体制などについては、区民の自主性・主体性が最大限確保されることを念頭におきながら、別途検討します。

### [ 3 ] 協働の実をあげるために

「人・まち・夢 プラン」は、器です。そこに盛り込むのは、地域活動への区民の意欲ですが、うまく盛り込んで協働の実をあげられるかどうかは、行政である区や、職員の意識改革が進むかどうかによって左右されます。

「人・まち・夢 プラン」は、地域の再発見をはたし、地域活動に意欲を持つ区民と、現に地域に存在する様々な課題に立ち向かい、地域の諸問題の解決に努力しているNPOを始めとする諸団体等を結びつけ、住民の手による地域サービスの拡大を実現する方策として提案しました。それは、小さな政府を求める時代の要請にも応えるものであり、杉並の自治を飛躍的に強化する提案である、と確信しています。

しかしまた、「人・まち・夢 プラン」は、それ自体が持つ推進力は決して強くありません。一人ひとりの区民の想いがこのプランに結集した時点では大きな力となることは疑いありませんが、個人的な趣味の領域に、区民の生きがいや意欲が流れていってしまう可能性があるからです。区民の意欲をこのプランで焼付け、地域活動への参加という形で定着させるために、区は、これまでになく努力を求められます。

「人・まち・夢 プラン」の推進を阻害する一つの要因は、NPOに存在する行政不信です。区は近年、協働の取組みの具体化としてNPOへの委託化を進めてきましたが、NPOからは、企画段階からの参加が保証されず、おし着せになってしまうこと、地域を共に作り上げるパートナーとして認識されず、区の下請け的な位置づけしか与えられないこと、NPOに委託することで生まれる付加的な価値を、共に育てていこうとする態勢の弱いこと、場当たり的で、長期的展望に欠けるきらいのあること、財源の保障が充分でないこと、などといった意見が寄せられています。

これとは裏腹に、行政の側にも、NPOの信頼性、安定性、公平性を不安視する見方も根強くあります。委託という形で、なすべきことを明確にして任せるならともかく、対等な協働関係の創造などは責任持てない、となります。

協働の取組みは、まだ始まったばかりであり、矛盾はあって当然です。大切なことは、こうした問題をあいまいにせず、協働の理念に立ち返って相互理解を深め、一步一步着実に歩み寄っていくことです。そのためにも、NPO等との協働のガイドラインのようなものの早期策定が、区に求められています。

一方、「人・まち・夢 プラン」を推進する力になるのは、なによりも地域活動への参加意欲を持った区民です。しかし、それに点火するのは、区の働きかけであり、明確な意図です。

区は、従来担ってきたサービスのどの部分を区民の手に委ねたいのか、また、新たに求められるサービスの提供主体は、誰が適切と考えているのか、それによって行政サービス全体をどういう形で構築しようとしているのかも含めて、これらの点を率直に区民に提示し、理解と協力を求めなければなりません。様々な批判や疑問が呈示されるにしても、こうした行政の意図が明確にされることで、区民の意欲にも方向性が強まるのです。

区は、昨年7月「地域人材育成・協働部会 中間のまとめ」を発表し、以後、四つの作業部会を設置して、先導的な協働事業の取組みの検討を進めてきました。中には、児童館の運営を共に担うパートナーとして、区民との関係を築きなおしていこうとする動きなど、成果も見られますが、区全体として見ると、中間のまとめで示した方向に対する理解は弱いままに止まっています。

防犯、環境、子育て、介護などの、区民に密着した行政分野を中心に、あらためて求められるサービスの内容や質を吟味し、地域活動によるサービス提供に移行していくべきものを明確にしていく必要があります。各部局で施策全般を洗い出し、「人・まち・夢 プラン」に乗せてサービス提供主体の移行計画を策定すること、専管部門を中心に、全庁を挙げてその実現に努めること、区とNPO等との中間に立ったコーディネート機関が、色々な要素を的確に結びつけて回転させていくこと、それが、「人・まち・夢 プラン」に実りを与え、推進力に点火することになるのです。この実りを与える仕組みについては、中間のまとめで論じたところであり、改めて言及するのは避けて中間のまとめを資料として添付するに止めますが、「人・まち・夢 プラン」という器に命を与えられるかどうかは、行政の、つまりは職員の意識をそれに見合う形で高めることができるかどうかにかかっています。

## [ 4 ] 実施に向けての取組み

人・まち・夢プランを稼働させるためには、これまでに例のない庁内での実効ある横断的な連携や多くの区民の参画が何よりも重要となります。実施にむけて体制づくりを強化し、具体的な取組みを明確にしていきます。

この人・まち・夢プランを立ち上げ稼働させるためには、職員の意識改革と同時にこれまでにない庁内での実効ある横断的な連携が重要となります。更に、行政とNPO等との連携を支える仕組みづくりや地域で核となってもらえる人材の確保など様々な課題があります。そのためには、専管組織を設置し全体的な調整を進めながらプランを稼働・循環させていく必要があります。また、これまでも部会の事務局は企画課、地域課、高齢者施策課、社会教

育スポーツ課の横断的組織で進めてきましたが、更に、専管組織のコーディネートのもと、その時々が必要に応じて各所管の担当者を加えた推進チーム等を編成してシステム構築の実働部隊としていきます。

団塊の世代の地域還流が本格化する平成18年までには、このプランを立ち上げ、一定程度軌道に乗せて実効あるものにしなければなりません。プランの構築のために残された時間は極めて厳しいものです。そこで平成15年度後期は、その準備期間として位置付け、体制づくりを強化することとします。

特に重要なのは、システムの大枠を検討し、システム設計の準備を整えることです。地域の様々な情報を区民の視点で提供することを意図した実施計画上の「地域ポータルサイト」と、この「人・まち・夢 プラン」の（仮称）杉並・地域参加情報サイトとは、内容の多くが重複します。したがって、杉並区地域ポータルサイト懇談会の中で、（仮称）杉並・地域参加情報サイトと地域ポータルサイトのあり方を、一括して検討していきます。

#### <平成15年度後期の重点課題>

職員の意識改革を積極的に行いません。

NPOに対する正しい理解を徹底すると共に、「協働」の視点からの事業の見直しを行います。また、協働推進人材養成講座等の研修を行い、関連各課の相談・調整能力の向上を目指します。

全庁的な取組み体制を強化します。

区民生活部内に専管部門を設けます。今後実施に向け、全庁的な取組み体制を構築し、推進します。各部で、協働移行事務を選定するため、全ての事務事業を対象とした調査を行います。

（仮称）杉並区協働ガイドラインを策定します。

協働対象事業の考え方の整理及び望ましい協働の実践を積み上げていくための指針となる（仮称）杉並区協働ガイドラインを策定します。

（仮称）杉並・地域参加情報サイト構築に向けて検討を開始します。

杉並区地域ポータルサイト懇談会を立ち上げ、（仮称）杉並・地域参加情報サイトの構築に向けて検討を進めます。また、協働の裾野を広げ（仮称）杉並・地域参加情報サイトを実効あるものとして稼働させるために、サイトへの理解と協力をNPOや企業へ積極的に呼び掛けます。

（仮称）杉並・人づくり大学の骨格づくりを行います。

名称・講座の範囲・専用の場の確保や組織・体制などについて関連部署及び区民、

有識者等を含めた検討の機会を持ちます。

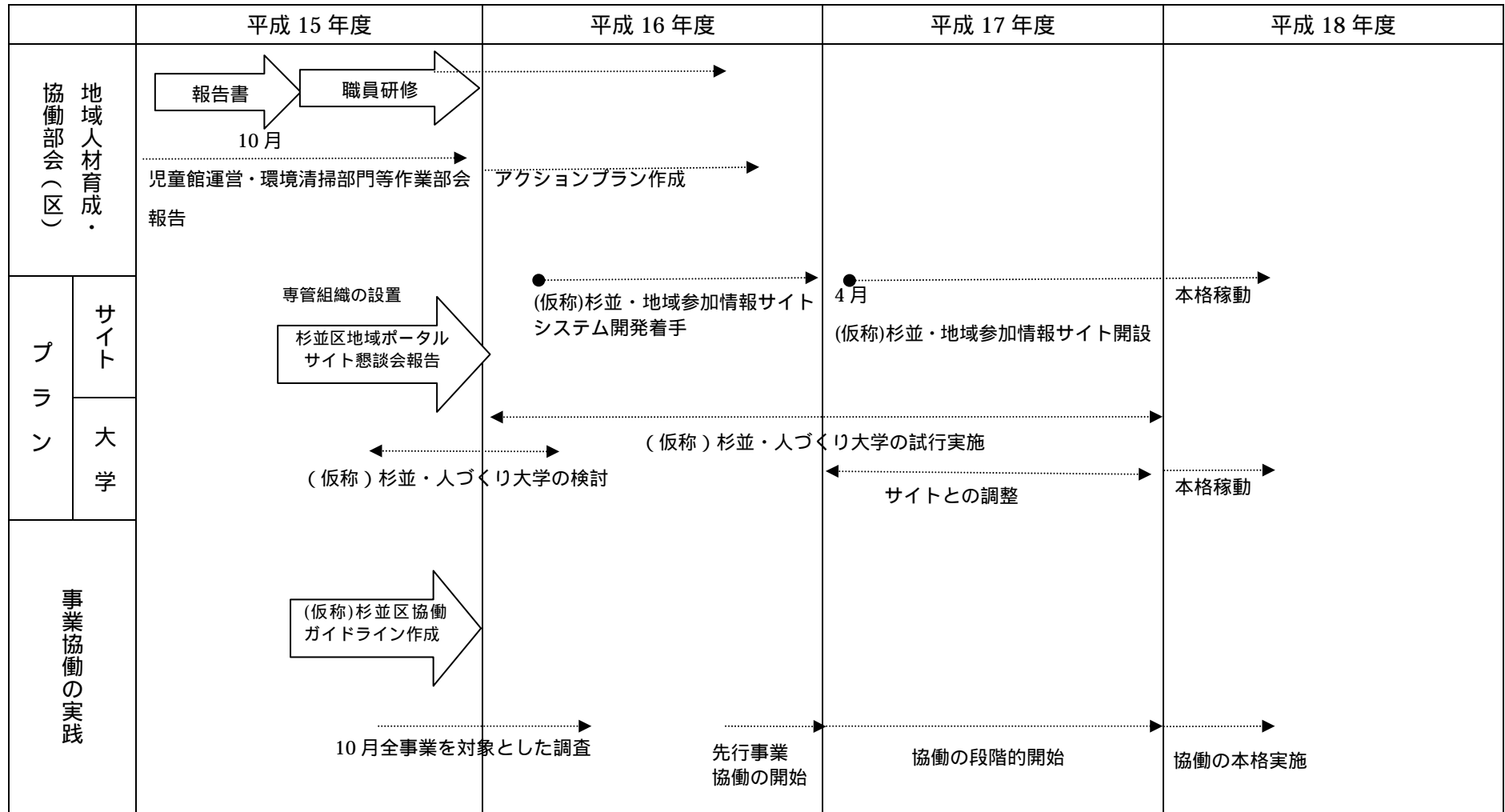
杉並NPO・ボランティア活動推進センターとの連携体制を強化します。

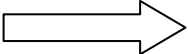
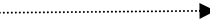
昨年10月に開設した活動推進センターに対して、中間支援組織としての人材養成やコーディネート機能の強化を図るために支援を行うとともに、システムの構築に向けて連携体制を強化します。

#### <今後のスケジュール>

平成15年	10月	部会としての最終報告書 専管組織の設置
	10月下旬	(仮称)杉並・人づくり大学の検討 全事務事業を対象とした調査
平成16年	3月下旬	地域ポータルサイト懇談会報告書 (仮称)杉並区協働ガイドラインの作成
	5月初旬	システム開発着手
	10月	先行事業協働の開始
平成17年	4月	協働の段階的開始 (仮称)杉並・地域参加情報サイト開設
平成18年	4月	協働の本格実施

# 「人・まち・夢 プラン」実施に向けての取組み



-  …… 検討時期など、確定していること。
-  …… 時期など、未定事項。
- …… 組織や検討会等の設置

## 地域人材育成・協働部会及び区民意見交換会 検討経過

第1回	平成14年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用システムのあり方について</li> <li>・関連事業の進捗状況について</li> </ul>
第2回	平成14年4月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用システムのあり方について</li> <li>・関連事業の進捗状況について</li> </ul>
第3回	平成14年4月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用に関する調査の実施について</li> <li>・地域社会などに委ねる事業等について</li> </ul>
第4回	平成14年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用に関する各課調査及びヒアリングの結果について</li> <li>・報告書の起草について</li> </ul>
第5回	平成14年7月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用部会報告書の骨子(案)について</li> </ul>
第6回	平成14年7月9日	〃
第7回	平成14年7月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材育成・活用部会報告書(案)について</li> </ul>
第8回	平成14年8月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキングチームの構成について</li> <li>・今後の進め方</li> </ul>
第9回	平成14年12月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループの設置について</li> <li>・地域人材システム試行調整委員会の進め方について</li> </ul>
区民意見 交換会	平成15年1月31日 2月18日 3月24日 4月7日 4月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政のあり方について</li> <li>・仕組みづくりについて</li> <li>・人材育成のあり方について</li> </ul>
第10回	平成15年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループの進捗状況及び課題</li> <li>・15年度スケジュール</li> <li>・試行調整委員会について</li> </ul>
第11回	平成15年7月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告骨子(案)について</li> </ul>
第12回	平成15年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告骨子(案)について</li> </ul>
第13回	平成15年9月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告(案)について</li> </ul>
第14回	平成15年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告(案)について</li> </ul>



## 地域人材育成・活用部会員名簿

	氏 名	所 属
部会長	四居 誠	区民生活部長
副部会長	大澤 涉	高齢者担当部長
部会員	根本 信司	企画課長
"	森田 師郎	政策経営部副参事(行政改革担当)
"	清水 正弘	政策経営部副参事(組織・能力開発担当)
"	玉山 雅夫	地域課長
"	伊藤 重雄	保健福祉部管理課長
"	土佐 和男	高齢者施策課長
"	関谷 隆	児童青少年センター所長
"	加藤 真	公園緑地課長
"	上原 和義	環境課長
"	佐々木 孝彦	ごみ減量担当課長
"	鈴木 雄一	環境清掃部副参事(環境都市推進担当)
"	和田 義広	教育委員会事務局庶務課長
"	武笠 茂	教育委員会事務局社会教育スポーツ課長
事務局	末久 秀子	区民生活部副参事(NPO担当)

人・まち・夢 プラン  
～協働による新しいまちづくりに向けて～

平成 15 年度版

登録印刷物番号
---------

平成 15 年 10 月発行

15 - 0095
-----------

編集・発行 杉並区区民生活部地域課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

(03) 3312 - 2111(代)

- ・ この印刷物は庁内印刷です。
- ・ 本誌は、本文は古紙配合率 100%白色度 70%台、表紙は古紙配合率 70%の再生紙を使用しています。